

臨床薬学総合演習

責任者・コーディネーター	臨床薬学分野 朝賀 純一 准教授 地域医療薬学分野 松浦 誠 特任教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬学分野、地域医療薬学分野、情報薬科学分野、薬学教育学分野		
対象学年	6	区分・時間数	講義 30 時間
期間	前期		
単位数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

これまでに学修してきた医療薬学、薬学と社会、薬学臨床、実務実習などを踏まえ、代表的疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）等について、患者への服薬指導、医師への情報提供や処方提案に関する演習を行う。さらに、代表的疾患の病態と薬物治療や用いられる医薬品の特徴を確認する。各種ガイドライン、エビデンス、重篤副作用マニュアル等の使い方を学ぶことで薬物療法の実践およびチーム医療・地域保健医療への参画に必要な薬剤師実務に応用できる知識、技能、態度を身につける。

・教育成果（アウトカム）

代表的疾患における薬学的管理を理解するために患者背景や経過に配慮すべきことを総合的に考察することにより、アドバンストな患者への服薬指導、医師への情報提供や処方提案ができるようになる。さらに、医療チームの一員として質の高い薬物療法の実践および地域保健医療への参画・実践へのための知識や応用能力の修得を目指す。
(ディプロマ・ポリシー:2,3,4,5,6,9)

・到達目標（SBO）

1. 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる（914）。
2. 処方箋の記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる（920）。
3. 注射薬処方箋の記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる（921）。
4. 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる（923）。
5. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる（924）。
6. 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる（946）。
7. 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる（947）。
8. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる（948）。
9. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する（954）。
10. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる（955）。
11. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる（956）。

12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料、特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いができる (961)。
13. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる (990)。
14. 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる (999)。
15. 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる (1000)。
16. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる (1005)。
17. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる (1006)。
18. 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる (1007)。
19. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる (1009)。
20. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる (1010)。
21. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる (1012)。
22. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる (1016)。
23. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロセスを提案できる (1017)。
24. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる (1018)。
25. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる (1019)。
26. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる (1020)。
27. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる (1021)。
28. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる (1022)。
29. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で適切に記録する (1024)。
30. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議する (1031)。

・ 講義日程

(矢) 西 2-A 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/4	月	1・2	地域医療薬学分野 臨床薬剤学分野	松浦 誠 特任教授 朝賀 純一 准教授	主に糖尿病、栄養療法、褥瘡、高尿酸血症を中心に演習。 基本的な病態や薬剤に関する知識に関する課題を事前に取り組み、その課題を踏まえた演習を実施する。 1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。 2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。 【PBL】 事前学習：課題として与えられた疾患について、予め病態（病態生理、症状

					等)、治療薬の薬理と副作用、薬物治療(医薬品の選択、使用方法等)などについて学習しておく。 事後学習:PBLの内容を自分でまとめておくこと。
4/4	月	3・4	地域医療薬学分野 臨床薬剤学分野	松浦 誠 特任教授 朝賀 純一 准教授	主に糖尿病、栄養療法、褥瘡、高尿酸血症の事前課題・演習問題の解説及び関連する基礎知識についての講義 1. 課題に関連する病態(病態生理、症状等)、治療薬の薬理と副作用、薬物治療(医薬品の選択、使用方法等)を説明できる。 2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。 【PBL】 事前・事後学習:上記と同様とする。
4/5	火	1・2	地域医療薬学分野 薬学教育学分野 臨床薬剤学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授 朝賀 純一 准教授	主に精神神経疾患、セルフメディケーション、在宅管理を中心に演習。 基本的な病態や薬剤に関する知識に関する課題を事前に取り組み、その課題を踏まえた演習を実施する。 1. 課題に関連する病態(病態生理、症状等)、治療薬の薬理と副作用、薬物治療(医薬品の選択、使用方法等)を説明できる。 2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。 【PBL】 事前学習:課題として与えられた疾患について、予め病態(病態生理、症状等)、治療薬の薬理と副作用、薬物治療(医薬品の選択、使用方法等)などについて学習しておく。 事後学習:PBLの内容を自分でまとめておくこと。
4/5	火	3・4	地域医療薬学分野 薬学教育学分野 臨床薬剤学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授 朝賀 純一 准教授	主に精神神経疾患、セルフメディケーション、在宅管理の事前課題・演習問題の解説及び関連する基礎知識についての講義 1. 課題に関連する病態(病態生理、症状等)、治療薬の薬理と副作用、薬物治療(医薬品の選択、使用方法等)を説明できる。

					<p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】 事前学習：上記と同様とする。 事後学習：課題・講義内容を各自整理し、まとめておくこと。</p>
4/6	水	1・2	<p>情報薬科学分野 臨床薬剤学分野 情報薬科学分野</p>	<p>西谷 直之 教授 朝賀 純一 准教授 佐京 智子 助教</p>	<p>主に免疫・アレルギー疾患、感染症、がんを中心に演習。 基本的な病態や薬剤に関する知識に関する課題を事前に取り組み、その課題を踏まえた演習を実施する。</p> <p>1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。</p> <p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】 事前学習：課題として与えられた疾患について、予め病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）などについて学習しておく。 事後学習：PBLの内容を自分でまとめておくこと。</p>
4/6	水	3・4	<p>情報薬科学分野 臨床薬剤学分野 情報薬科学分野</p>	<p>西谷 直之 教授 朝賀 純一 准教授 佐京 智子 助教</p>	<p>主に免疫・アレルギー疾患、感染症、がんの事前課題・演習問題の解説及び関連する基礎知識についての講義</p> <p>1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。</p> <p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】 事前・事後学習：上記と同様とする。</p>
4/7	木	1・2	<p>地域医療薬学分野 臨床薬剤学分野 情報薬科学分野</p>	<p>松浦 誠 特任教授 高橋 宏彰 助教 氏家 悠貴 助教</p>	<p>主にがん支持療法、緩和ケアを中心に演習 基本的な病態や薬剤に関する知識に関する課題を事前に取り組み、その課題を踏まえた演習を実施する。</p>

					<p>1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。</p> <p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】</p> <p>事前学習：課題として与えられた疾患について、予め病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）などについて学習しておく。</p> <p>事後学習：PBL の内容を自分でまとめておくこと。</p>
4/7	木	3・4	<p>地域医療薬学分野 臨床薬剤学分野 情報薬科学分野</p>	<p>松浦 誠 特任教授 高橋 宏彰 助教 氏家 悠貴 助教</p>	<p>主にごん支持療法、緩和ケアの事前課題・演習問題の解説及び関連する基礎知識についての講義</p> <p>1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。</p> <p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】</p> <p>事前学習：上記と同様とする。</p> <p>事後学習：課題・講義内容を各自整理し、まとめておくこと。</p>
4/8	金	1・2	<p>臨床薬剤学分野 地域医療薬学分野</p>	<p>工藤 賢三 教授 松浦 誠 特任教授</p>	<p>高血圧、心疾患、脳血管障害を中心に演習。</p> <p>基本的な病態や薬剤に関する知識に関する課題を事前に取り組み、その課題を踏まえた演習を実施する。</p> <p>1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。</p> <p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】</p> <p>事前学習：課題として与えられた疾患について、予め病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治</p>

					療（医薬品の選択、使用方法等）などについて学習しておく。 事後学習：PBLの内容を自分でまとめておくこと。
4/8	金	3・4	臨床薬学分野 地域医療薬学分野	工藤 賢三 教授 松浦 誠 特任教授	<p>高血圧、心疾患、脳血管障害の事前課題・演習問題の解説及び関連する基礎知識についての講義</p> <p>1. 課題に関連する病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）を説明できる。</p> <p>2. 課題に関連する薬剤について、適応症例、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育を具体的に提示し、説明できる。</p> <p>【PBL】 事前・事後学習：上記と同様とする。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	治療薬マニュアル 2022	北原光夫、上野文昭、 越前宏俊 編集	医学書院	2022
参	病気がみえる Vol.1 消化器 第6版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
参	病気がみえる Vol.2 循環器 第5版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2021
参	病気がみえる Vol.3 糖尿病・ 代謝・内分泌 第5版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2019
参	病気がみえる Vol.4 呼吸器 第3版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
参	病気がみえる Vol.5 血液 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017
参	病気がみえる Vol.6 免疫・膠 原病・感染症 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
参	病気がみえる Vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017
参	病気がみえる Vol.8 腎・泌尿 器 第3版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2019

参	病気がみえる Vol.9 婦人科・ 乳腺外科 第4版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
参	病気がみえる Vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
参	病気がみえる Vol.11 運動 器・整形外科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017
参	病気がみえる Vol.12 眼科 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2019
参	病気がみえる Vol.13 耳鼻咽 喉科 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
参	病気がみえる Vol.14 皮膚科 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
参	薬がみえる Vol.1 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2021
参	薬がみえる Vol.2	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2015
参	薬がみえる Vol.3	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2016
参	薬がみえる Vol.4	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
参	実践事前実習テキスト (上)〈下〉—8大疾患・3 5症例から臨床を考える	林宏行、日高慎二 著	京都廣川書店	2018
参	症例から考える代表的な8疾 患 第2版	京都府薬剤師会 編	じほう	2019
参	薬学演習Ⅰ(スタンダード薬 学シリーズⅡ-9):医療薬 学・臨床薬学	日本薬学会 編	東京化学同人	2020
参	128症例で身につける 臨床 薬学ハンドブック 改訂第3 版	越前宏俊、鈴木 孝 編	羊土社	2019
参	重篤副作用疾患別対応マニユ アル	厚生労働省	PMDA ホームページ (ダウンロード 可)	

・成績評価方法

定期テスト（100％）で評価する。さらに実践的な知識を必要とするアドバンス演習課題を提示する予定であり、自主的に取り組みプロダクトを提出した際には評点に加味する。

・特記事項・その他

事前学習：演習内容に関連する課題を事前に提示する。課題として与えられた疾患について、予め病態（病態生理、症状等）、治療薬の薬理と副作用、薬物治療（医薬品の選択、使用方法等）などについて学習（理解）しておく。

事後学習：演習課題として与えられた症例について、薬学的管理、医師への処方提案、患者への服薬指導や患者教育の内容を確認し、振り返りを行う。各自整理し、まとめておくこと。

これらの学習には事前事後学習として4時間程度を要する。さらに試験対策・事後復習として30時間程度確保する必要がある。

定期試験：定期試験は4月11日（月）2限目を実施する。試験及びプロダクトのフィードバックはmoodleを用いて行う。

提出されたプロダクトは個別にフィードバックを行う。

試験については、moodleに解説を掲載する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
	コンピューター	1	講義資料の映写、プレゼンテーション